日本音楽集団
PRO MUSICA NIPPONIA

PRO MUSICA NIPPONIA

第187回定期演奏会
The 187th Regular Concert

伊福部昭音楽祭
師に捧げる
邦楽コンサート

Memorial
IFUKUBE AKIRA

2007年
5月25日[金]
午後7時開演（6時30分開場）
第一生命ホール

：主催：特定非営利活動法人日本音楽集団
NPOトリトン・アーツ・ネットワーク／第一生命ホール
：助成：平成19年度文化庁芸術創造活動重点支援事業
（財）三菱信託芸術文化財団

文化庁

■日本音楽集団：http://www.promusica.or.jp/ E-mail office@promusica.or.jp
■トリトン・アーツ・ネットワーク：http://www.triton-arts.net

一、 交響譚詩（1943年）日本音楽集団版（2005年）／秋岸寛久編曲

Ballata Sinfonica,comp.by IFUKUBE Akira／arr. by AKIGISHI Hirohisa

［笛］Ⅰ越智成人 Ⅱ西川浩平　［笙］真鍋尚之　［篳篥］西原祐二
［尺八］Ⅰ米澤浩・阪口夕山 Ⅱ竹井誠 Ⅲ渡辺淳・元永拓 Ⅳ原郷隆
［胡弓］吉沢昌江（助演）［細棹三味線］Ⅰ穂積大志 Ⅱ山崎千鶴子
［太棹三味線］Ⅰ工藤哲子・守啓伊子　［琵琶］Ⅰ田原順子 Ⅱ久保田晶子
［二十絃箏］Ⅰ熊沢栄利子・三宅礼子 Ⅱ桜井智永・田村法子 Ⅲ山田明美・久本桂子
［十七絃］Ⅰ城ヶ崎美保・佐藤里美 Ⅱ久東寿子・丸岡映美
［打楽器］高橋明邦・仙堂新太郎
［指揮］田村拓男

二、 二十五絃箏曲「琵琶行」〈白居易ノ興に效フ〉（1999年）

Pipa Xing -d´aprè s poè me de Bai Juyi- Pour Koto à vingt-cinq Cordes, comp.by IFUKUBE Akira

二十五絃箏独奏：野坂惠子（客演）

休憩 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・

三、 SF交響ファンタジー邦楽器版（委嘱・初演）／秋岸寛久編曲

SF Symphonic Fantasia Japanesque, comp.by IFUKUBE Akira／arr.by AKIGISHI Hirohisa

［笛］越智成人・西川浩平　［笙］真鍋尚之　［篳篥］西原祐二
［尺八］Ⅰ米澤浩・渡辺淳・阪口夕山 Ⅱ竹井誠・原郷隆・元永拓
［胡弓］吉沢昌江（助演）
［細棹三味線］杵家七三・簑田弘大　［太棹三味線］工藤哲子・守啓伊子
［琵琶］首藤久美子・久保田晶子
［二十絃箏］Ⅰ山田明美・田村法子 Ⅱ桜井智永・三宅礼子 Ⅲ熊沢栄利子・渡辺正子
［十七絃］Ⅰ城ヶ崎美保・久東寿子 Ⅱ久本桂子・丸岡映美
［打楽器］仙堂新太郎・望月太喜之丞・盧　慶順・島村聖香
［指揮］田村拓男

四、 郢曲「鬢多々良」（1973年）

Bintatara per 16 strumenti di Giappone, comp.by IFUKUBE Akira

［笛］Ⅰ越智成人　Ⅱ藤舎理生（助演）　［竜笛］竹井　誠　［能管］西川浩平
［篳篥］西原祐二　［笙］真鍋尚之
［筑前琵琶］田原順子　［薩摩琵琶］首藤久美子
［箏］Ⅰ**野坂惠子**（客演）・桜井智永・久東寿子　Ⅱ熊沢栄利子・田村法子・佐藤里美
Ⅲ山田明美・三宅礼子・渡辺正子
［十七絃］城ヶ崎美保・久本桂子・丸岡映美
［打楽器］尾崎太一・高橋明邦・望月太喜之丞・盧　慶順・島村聖香
［指揮］田村拓男

伝統の継承発展とは?

音楽伝統の継承発展の問題を考えるとき、音階やリズムや形式といった基本的な要素から見るのと、もうひとつ別に、楽器から見る方法とがあるという。
このことを私は、日本音楽集団発足にさいして、伊福部昭が寄せたメッセージのなかの言葉としておぼえている。

このたびのプログラムは、伊福部昭の創作の原点を、楽器の面からたどってみる絶好の機会に思われる。

それは第一に、「物云舞」以来、野坂惠子が歩んだ成果が、ついには管弦楽作品にまで及んだのをきくことができるからだが、そのことは別の機会にゆずるとして、ここでは郢曲「鬢多々良」—私はいまではこれを現代雅楽の真の代表作といいたい—で考えてみようと思う。

1975年、それは筆者が作曲家に最初にお会いしたときでもあったのだが、公開で催された「作曲家との対話」(同名書、新日本出版社、1982)にさいして、作曲家自身が選んだいくつかの代表作のなかで最も新しい作品として郢曲「鬢多々良」はとりあげられ、初演の音の再生をききながら、楽器の選び方をはじめ表現の意図などについてたいへんわかりやすく、具体的にきかせていただいたものである。

それは、次のように要約できる。「音の動きには品格の差というものがあり、また音色と楽器の機能にともなう品格の差もあるのです。日本楽器を使う以上は、その動きに品格としての限界があるということを私は考えていて、この作品では、オーソドクスな限界を越えない動きを使っています。それは、そのような動きの中でも、新しい発想が必ずできるにちがいないと考えているからであります」と。

日本音楽集団は、この曲の初演の任を担ったにもかかわらず、これまで必ずしも演奏回数が多くなかった。その理由は、雅楽の奏者を特別に外部から依頼しなければならないからだときいており、それにたいして半分納得しつつ、いまあらためて楽器編成をみてみることにした。すると、たしかに10人をこえるほど編成が大きく、楽器の種類も多いが、それだけでなく、ここでは近世邦楽の代表楽器である三味線が使われていないこと、それにもうひとつ、尺八の出番がないという特徴があることに気づいた。

三味線は、近世邦楽のなかでは中心の位置を占めていた楽器である。それなのに現代邦楽の歴史のなかでは逆に一番使われにくかったことは、ほかの多くの作曲家の場合にもみられることで、これはそう珍しいことではない。

しかしこの曲で、尺八が避けられているということは、ちょっと意外であった。もちろん、最近の管弦楽から邦楽器版への編曲のなかでは尺八も取り入れられているが、ともかく、郢曲「鬢多々良」には尺八が使われていない。その理由を作曲家は別のところで、ぽつりと述べている。北海道時代の虚無僧尺八の印象が残っているので、と。だが、それだけだろうか。もちろん、篠笛2、竜笛、能管、ひちりき、それに笙とくれば、笛類は十分である。

じつは尺八は6、70年代の現代邦楽の流れのなかで、かなりの役を演じてきていた。ちょうど日本音楽集団発足の1964年には、諸井誠の尺八現代本曲「竹籟五章」、「対話五題」があらわれ、かなり話題を呼んだように記憶している。

伊福部昭が郢曲「鬢多々良」の作曲を思い立ったのはいつごろであったか、それはわ

からないが、かれは、敗戦からまだ日の浅いころ、京都の古道具屋で、明清楽の楽器一揃いを手に入れている。それら楽器たちと彼は独特の触れ方でつきあっていた。 論文のような文章もある。作曲家にとっては60年代前後のゆったりとした時間のなかで、おそらく、この曲の構想もあたためられていたにちがいない。

それは、雅楽の長い歴史、そのときどきの社会の変化に応じながら今日まで流れてきた歴史を俯瞰し、いま書くなら、いっそ、かなり古い時代までさかのぼってみよう。そこには、庶民の暮らしのなかに生き生きとした音楽があったにちがいなく、そのようなものならば今によみがえらせても良いのではないかと、作曲家は構想した。それを如実にあらわしたのが題名、郢曲「鬢多々良」である。

さきの引用に続けていえば、たたらとはふいごのことであり、そこからきている「たたらを踏む」とは、酒を飲んで調子よくやるというようなもので、作曲者はさらにわかりやすく、70年代当時大いに流行っていた若者の踊りゴーゴー・ダンスのようなものと思ってもらえばいい、などと解説している。

曲の冒頭にあらわれる第一箏には、現在の雅楽のなかの楽器では到底期待できそうにない表現力を担わせている。箏独特の、私も大好きな音色に続いて華やかなフィギュレーションがふんだんに展開される。それにたいしてその他の楽器たちは、その楽器のもっている力をただ、生き生きとしたリズムの中で生かしきっていると思われる。

それにしても、これを奏した経験をもつものなら、いや、一度でもきいたことのあるものなら、音楽のもつ本来の精神を高揚させる力によって、それこそいつのまにかひきこまれ、最後の一打ちと鋭い能管の一吹きで曲が終わると、これぞわが日本の伝統、と思い到るにちがいない。

もう一度音楽年表でこの曲の作曲年を振り返ってみると、おもしろい符合に気がつく。武満徹の雅楽作品として有名な「秋庭歌」が書かれた年なのであった。

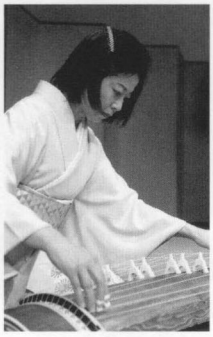
もちろん、「秋庭歌」はその後さらに書き加えらるなどして「秋庭歌一具」となり、私が数年前に耳にしたのは、芝祐靖と伶楽舎によって、より充実した音楽となって再現されたものであった。たしかにそれは、雅楽をまったく知らなかったものにも雅楽の存在価値を十分知らしめると思う。

ただ、同じ時代の作品として伊福部昭の現代雅楽と武満徹のそれとをならべてみると、すごいちがいも感じる。一方はいまのこの時代社会の風潮にたいして、文字通り強く反発する力がこめられていて、 奏者はもちろん、聴き手の誰もが、新しい生命を吹き込まれる。

たまたま、諸井誠、武満徹、ともに昭和一桁生まれの作曲家を引き合いに出すことになったが、私自身を含めて、伝統音楽との接点は必然的に、一世代上のそれとは違う。多かれ少なかれ、よほど自覚しない限り自国の伝統に対してさえエキゾチシズムをまぬがれることができないのである。このことの課題はかなり根が深い。私としても、 まだこれから追求すべき大きな課題として見据えておかねばならないところだ。

わが師の恩

野坂惠子



先生に初めてお会いして30余年。その間、曲を書いて頂いたにも関わらず、私は箏奏者として自分の在るべき姿を模索し続け、演奏活動の中断等で、お会いする機会を失していました。

1990年、8年ぶりのリサイタルで「二十絃箏曲物云舞」を演奏後、お宅に伺った折、「野坂さん、停止(ちょうじ)という言葉があります」と切り出され、「一歩手前に控えること。そこに奥床しさが生まれ、そこから立ち上るものこそ芸術」といったことを話されました。それは持てる全てを箏にぶつけ、自分をさらけ出すことで何かを得ようとあがいていた私に、光が射してきた瞬間でした。

二十絃箏を作り、次第に22絃、23絃に、遂に1991年二十五絃箏を作ったのは伊福部作品を弾く為でした。先生はこの楽器の為に11曲の作品を残して下さっています。いずれも箏が箏として存在し得る名品で、題材は日本のみならずアジアに拡がり、深く、悠々として且つ生命力に満ちみちています。「作を労さず、自然であること」の先生の持論は、この楽器にとってどれ程幸せなことであったかを実感させられています。

思えば、先生最晩年の16年間、新作の試演等お聴き頂いたこと。音楽論から始まって全ての裏付けを持つ博学のお話しを伺えたこと。又「作品が書けたら見ましょう」と温かい手を差しのべて下さったこと。「音楽入門」「管絃楽法」の御本を頂戴し、"惠存"とサインして下さったこと等々、勉強を続けなさい、というお心だったと有難く思っています。「用意が整った時、師が現われる」という禅の言葉通りに、私は先生と出会うことができました。

今晩はミュージック・ペンクラブ賞を受賞した「二十五絃箏曲琵琶行」と、郢曲「鬢多々良」を日本音楽集団の皆さまと演奏出来ることをとても幸せに思っています。郢曲「鬢多々良」初演から34年の歳月が流れました。あの頃の気持ちを思い出しています。先生に喜んで頂けるような演奏となることを祈りつつ……。

野坂惠子プロフィール

東京芸術大学同修士課程修了。'65～83年「日本音楽集団」に参加。'69年二十絃箏を開発。'75年メニューヒン・フェスティバルで招待演奏後、'81年とあわせ欧米にて22回のソロリサイタル。'91年二十五絃箏を発表。'92年松尾芸能賞優秀賞。'96年東京芸術大学非常勤講師(8年間)。'00年ミュージックペンクラブ賞。'02年芸術選奨文部科学大臣賞。'03ミュージック・フロム・ジャパンの北米リサイタルツアー、紫綬褒章、二代野坂操壽襲名。'06年中島健蔵音楽賞、エクソンモービル音楽賞。現在、桐朋学園芸術短期大学特任教授、(社)日本三曲協会理事、生田流協会理事、東京国際ギターコンクール常任審査員、生田流箏曲松の実会主宰。

【曲について】

■日本音楽集団版交響譚詩

このオーケストラ曲を、野坂惠子・小宮瑞代(親子)による二十五絃箏の二重奏で見事に演奏してしまったことには驚かされましたが、一昨年の5月には、今度は日本音楽集団版が誕生しました。秋岸寛久が伊福部先生の指導を受けながら書き上げたもので、先生が今日もこの会場でお聴きになっているような気がします。あたかも邦楽器のための作品であったかの如く、そして2章では、先生とお兄さまへの追悼曲として演奏したいと思います。

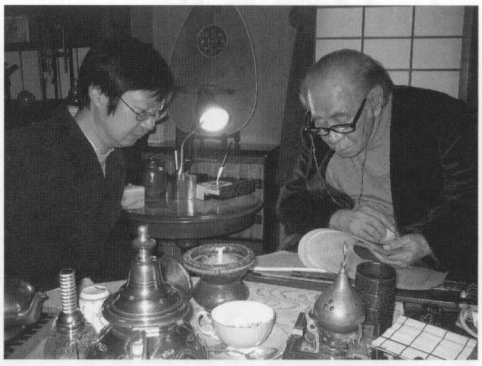
■二十五絃箏曲〈琵琶行〉—白居易ノ興ニ效フ

この曲は、野坂惠子氏の委嘱により1999年に誕生、同年11月13日、第17回野坂惠子リサイタルで初演されました。最もスケールが大きく、演奏時間約20分という曲。伊福部氏85歳の時の作品。

野坂惠子氏によって1969年に開発された二十絃箏は、さらに彼女の理想を実現する形として1991年、二十五絃箏が誕生し、その8年後の「琵琶行」の発表へとつながっています。

伊福部氏は、中国唐の時代の詩や史記、そして1972年湖南省の古墳から発掘された紀元前の婦人の副葬品のなかに絃を張ったままの二十五絃が現れた事実などから、この楽器が決して特殊なものでなく、むしろ古代から王侯、貴族の間で高雅な響きを持った楽器としてあったことを述べています。

■「SF交響ファンタジー」邦楽器版



伊福部先生は、東宝の特撮映画「ゴジラ」「宇宙大戦争」「三大怪獣地球最大の決戦」「怪獣総進撃」などのために書いた音楽を、ご自身の手によってコンサート用に「SF交響ファンタジー」という作品に編曲されています。その第一番を邦楽器版にアレンジしました。原曲の低音金管を中心としたサウンドは、邦楽器からは最も遠いところにあり、無謀なチャレンジかとも思いましたが、うまくいけば新たな伊福部サウンド、新たな音楽集団サウンドが引き出せることと思います。邦楽器は音域が狭く、転調の苦手な楽器がたくさんありますので、原曲とは違った転調を何度か強いられましたが、それでも特に箏群は頻繁な押し手と、煩雑な調絃変えに悩まされるところもあり、アレンジも苦労しました。しかし、アレンジに携わっている間中、何とも言えない充足感、幸福感があり、それは演奏してくれるメンバーや聴いてくださる方々にも共有していただけるものと思っています。

（秋岸寛久）

■ 郢曲「鬢多々良」（えいきょく　びんたたら）

1972年、文化庁の委嘱により作曲され、1973年秋の芸術祭主催公演「日本音楽集団演奏会」で初演されました。伊福部氏がはじめて手がけた邦楽器のための作品です。

「郢曲」（えいきょく）とは、平安中期にわが国に興った音楽の一形態ですが、様式としては、宮廷社寺楽と庶民の俗楽との中間に位していました。したがって旋法などもわが国と唐・天竺などとの混淆にあったと考えられています。「鬢多々良」（びんたたら）とは、詠唱を伴ったかなりくつろいだ舞い楽で、あまり厳格に定まった振りはなかったらしく、各自が自由に舞い、やがて乱舞に至るのが常であったとされています。

日本音楽集団　最近の活動と今後のおもな予定

2006年
6月20日（火）TAN共催「Meet The 和楽器」月島第一小学校公演
6月26日（月）TAN共催「Meet The 和楽器」佃島小学校公演
10月 9日（月）IFOR（国際友和会）世界大会歓迎レセプション　八王子大学セミナーハウス
10月18日（水）～20日（金）熊本県山都町ふれあいコンサート　保健福祉センター　蘇陽中学校　蘇陽支所庁舎ホール　矢部中学・高等学校
10月21日（土）～22日（日）プーク人形劇場誕生35周年記念公演　プーク人形劇場
10月23日（月）TAN共催「Meet The 和楽器」月島第二小学校公演
11月 3日（金・祝）第33回都民コンサート邦楽器による「ボレロ」と「剣の舞」　イイノホール
11月 7日（火）東京女学館　東京女学館講堂
11月18日（土）第185回定期演奏会昼・夜公演　和楽劇「呑気布袋」（ドン・キホーテ）より　第一生命ホール
11月24日（金）所沢北高等学校　芸術鑑賞会　市民文化センター　アークホール
11月28日（火）藤枝順心中学校・高等学校音楽鑑賞会　学校講堂
12月19日（火）TAN共催「Meet The 和楽器」中央小学校公演
2007年
1月 2日（火）新春を飾る和の響き「春の海」　東京国際フォーラムC
1月 3日（水）　〃　大宮ソニックシティ大ホール
1月 6日（土）　〃　横浜みなとみらいホール
1月 7日（日）TAN共催「Meet The 和楽器」日本橋公会堂一般公演
1月23日（火）TAN共催「Meet The 和楽器」常盤小学校公演
1月26日（金）第186回定期演奏会「明日への扉を開く」　津田ホール
1月30日（火）TAN共催「Meet The 和楽器」月島第三小学校公演
2月 2日（金）イオン「賀詞交歓会SOP」　帝国ホテル
2月18日（日）テレビ朝日「ちい散歩」に出演
2月25日（日）第23回「国技館5000人の第九コンサートに出演」　両国国技館
3月 8日（木）国分寺第五中学校音楽鑑賞会　体育館
3月 9日（金）大田こども劇場公演　大田文化の森ホール
3月10日（土）松戸市青少年会館芸術祭公演（松戸市教育委員会）　青少年会館
5月25日（金）第187回定期演奏会「伊福部昭音楽祭」　師に捧げる邦楽コンサート　第一生命ホール
6月21日（木）大宮与野高校公演
6月30日（土）NHK教育テレビ「芸能花舞台」に出演　「星夢の舞」より／吉松隆作曲
8月10日（金）～12日（日）日本音楽集団夏期合奏講習会　大日本家庭音楽会　神田スタジオ
9月14日（金）第188回日本音楽集団定期演奏会　津田ホール和田薫　喚起の時Ⅱ～20年の時を超えて

賛助会員へのお誘い

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。
多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動を目指したく、ご協力お願い申し上げます。

年間一口、個人会員10,000円、法人会員30,000円

ニッポニア・ファイブ受付中

連続5回の定期演奏会がお得な料金でフリーパスになります。

ニッポニアAファイブ
定価5,000円のA指定席を5回連続15,000円

ニッポニアBファイブ
定価4,000円のB指定席を5回連続12,000円

詳細は日本音楽集団事務局までお問い合わせ下さい。

特定非営利活動法人日本音楽集団

【正会員】（団員）（楽器別・五十音順）

笛
越智成人
狩野嘉宏（新）
西川浩平

笙
真鍋尚之

篳篥
西原祐二

尺八
加藤秀和
阪口夕山
添川浩史
竹井誠（笛）
原郷隆
藤崎重康（笛）
水川寿也
三橋貴風
宮田耕八朗
元永拓
米澤浩
渡辺淳

胡弓
畦地啓司（作曲）
多々良香保里

三味線
杵家七三
工藤哲子
坂口美香
田中悠美子
穂積大志
簑田弘大
簑田司郎
守啓伊子
山崎千鶴子

琵琶
久保田晶子
首藤久美子
田原順子
細川華鶴子

箏
大畠菜穂子
久東寿子
熊沢栄利子
桜井智永
佐藤里美
島崎春美
城ヶ崎美保
高橋はるな
田村法子
早川智子
彦坂恵美
久本桂子
前川美保子
松下知代
丸岡映美
三宅礼子
宮越圭子
山田明美
山田由紀
吉村七重
渡辺正子

打楽器
臼杵美智代
尾崎太一
黒坂昇
島村聖香
仙堂新太郎
高橋明邦（指揮）
多田恵子
望月太喜之丞
盧慶順
若月宣宏

指揮
稲田康
田村拓男
田村文生

作曲
秋岸寛久
尾形敏幸
川崎絵都夫
長沢勝俊
福嶋頼秀

楽器・舞台
中島隆

名誉代表
長沢勝俊

代表
田村拓男

副代表
尾崎太一

運営委員
秋岸寛久
越智成人
西川浩平
原郷隆
簑田司郎
望月太喜之丞
米澤浩

監事
宮田耕八朗
今井隆夫

事務局
（アーツ・マネージメント・アドバイザー）
壱岐達郎
山戸彩
中山美穂子

【賛助会員】

法人
㈱全音楽譜出版社
㈱宮本卯之助商店
NPOトリトン・アーツ・ネットワーク

個人
青柳堯
新井克輔
飯塚絹子
飯吉正山
伊藤美恵子
今村厚子
江西緑
大関富枝
太田颯衣
大塚悦子
川壁正
岸彰則
後藤陽子
四反田素幸
杉田和繁
関厚雄
土井恵見
藤山雅弘
中島靖子
濱田靖子
古川羽衣山
本田実
水野正徳
渡辺京子
渡辺邦子
渡辺治子
Andrew MacGregor

【協力会員】（五十音順）

名誉団員
坂井敏子
白根きぬ子
野坂恵子
宮本幸子

地方支部
道東支部　谷藤彌
道東支部　竹馬亘
水戸支部　斎藤幸山
山梨支部　郷晃
長野支部　佐藤幸宇山
新潟支部　飯吉正山
愛知支部　山田孝子
愛媛支部　渡辺治子
福岡支部　安武由香理
熊本支部　古川安春

2007年4月現在

お知らせ

日本音楽集団・夏期合奏講習会2007

開催決定!

日程:2007年8月10日（金）～8月12日（日）
場所:大日本家庭音楽会
神田スタジオ（東京都千代田区内神田）

詳細はホームページ、または事務局までお問い合わせください。

NHK教育テレビ「芸能花舞台」に出演

放送:6月30日（土）13:00～13:44
再放送:7月7日（土）5:15～5:59、
7月9日（月）0:15～0:59　ともに教育テレビ
「星夢の舞」より／吉松隆作曲

日本音楽集団定期演奏会《モニター・ボランティア》募集

定期演奏会にご来場くださり、お客様の視点からの印象や感想などをレポートしていただく《モニター・ボランティア》を募集しています。リポートは音楽集団の定期演奏会の運営に役立たせて頂くほか、「モニター・レポート」として音楽集団のHP上で公開することもあります。

♪**応募方法**／本団事務局宛てに応募用紙とともに作文を送付していただきます。

♪**第7期締め切り**／平成19年8月17日（金）

ご希望の方は演奏会場、または日本音楽集団事務局へお問合せいただき、詳細な応募要項をお求めください。

長沢勝俊

音に命を吹き込む‥ 長沢音楽のすべて

日本音楽集団の西川浩平、水川寿也、宮越圭子の対話者が、"長沢ブシ"の魅力を訪ね、長沢勝俊の音楽人生について語る。
長沢と共に歩んだ方々の貴重なメッセージを収録。
また、作品年表も掲載。　A5判　定価700円

特定非営利活動法人
日本音楽集団

〒151-0073　東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302　TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033
ホームページ http://www.promusica.or.jp/　E-Mail office@promusica.or.jp

INTERNATIONAL MUSIC SERVICE
ims

アイ・エム・エス

●楽器リース●保管●移動●ステージ・スタッフ派遣
〒167-0043東京都杉並区上荻2-3-4 ゆうでんビル
PHONE.03-3397-2292
FAX.　03-3397-7728

粋に愉しむ

株式会社 琴光堂

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷2-19-15
TEL 03(3792)8481 FAX 03(3792) 8437
E-mail : tokyo@kinko-do.com